



蟠河院百首

1

特別
イ 4
3163
59(3)



頁
14
3163
59(3)

湖門院百首和哥下目錄



戀

初戀 余知戀 不會戀 初逢戀 後初戀
會不逢戀 臨戀 思 斤思 恨

雜

山 曉
河 松
野 竹
園 苔
橋 鷺

ついでに世にあらはししをまはりの親くまを今も後に師時
志すのこゝろをわたりしをまはりの親くまを今も後に師時
木はるらり神を金宗とていひ公を神隆源
と明社明といはるる道祖とて何と礼をいひ
ゆきぬ命をけりていふ式ありやる志す
よそぬる志すもあはるにやあはる物
わたりやあはるの志すは是れとて母を河内

人名知悉

抑祓る山田の志すはくわりの下へ志する公公美
其日そへ書け下あはるの志すは是れとて母を河内

ついでに世にあらはししをまはりの親くまを今も後に師時
志すのこゝろをわたりしをまはりの親くまを今も後に師時
我遊ハ鳥羽とて志すの志すはくわりの下へ志する公公美
いひたひをわたりし志すの志すはくわりの下へ志する公公美
あはるらり神を金宗とていひ公を神隆源
念ぬる志すはくわりの志すはくわりの下へ志する公公美
志する志すはくわりの志すはくわりの下へ志する公公美
浪ちりり志すの志すはくわりの志すはくわりの下へ志する公公美
念ぬる志すはくわりの志すはくわりの下へ志する公公美
若くは志すの志すはくわりの志すはくわりの下へ志する公公美

有いふとある所の系一筋にすむかき書よらふ
程をなくむいあまわさるるもく書ふあし種思
たあひくくさうらんじりらんまことしけり思
ひゆきもく不れらるる又よらあしけり
じやいさう海のおかしの孫は社わすれ橋舟ゆに
座すの種あたる海と書きまわさるる思
こころは終あふふりしと座す汁物と想へ
我あひくさるる書はく大書よ書ふるるなりやと座す
さま今此をてんてんてんてんてんてんてん
母のまものわらふら目よさうて海は社わすれ
國信 師教 啓書 仲實 後教 師時 後教 基後 隆原 肥後

うらあぬ中此さの書一に極終わい志の今分三紀傳
山にのりよ八書大流つ思ひ終をぬまの言れ 何日

片一思

こけひた君清く終をぬまのわすれの今分三紀傳
はくこの之形更よさうてんてんてんてんてん
いあひくさるる書はく大書よ書ふるるなりやと座す
あは我ら社わすれひとれと想ひぬまの言れ 何日
けり此の片一に八書大流つ思ひ終をぬまの言れ 何日
あはれはわすれぬかえんよらまの流らよもわらぬ書
を思ひこいたるるさうてんてんてんてんてんてん

國信 師教 啓書 仲實 後教 師時 後教 基後 隆原 肥後

志ぬ斗おし思ひつ情あふふよふ力ともいふうお入 師時
かきとんふのつゝも成らふよふく我のし揚れ成くも成 於仲
あふ多成りもわらせぬ玉の珠の行成せくも成 基後
ふ社をこくちも抱かぬもやぶらぬを何思ひ成せ 隆源
心成せぬ成ぬ人成らふも成らぬも成らぬも成らぬ 肥後
海に成らぬ成らぬ人の思ひ成らぬも成らぬも成らぬ 紀伊
我が心成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも成らぬ 何月

恨

おとされたるいひの事成業の恨もこの世凡そ 公實
こころも成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも成らぬ 匡房

恨心いひたるも成らぬも成らぬも成らぬも成らぬ 國信
多ぬる人の成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも 師光
あひよふも成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも 於季
とありに成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも 仲美
何事も成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも 後光
さ成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも 師時
た成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも 於仲
人成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも 基後
う成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも 隆源
浦成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも成らぬも 肥後

我々といふは忘れぬ事あるをいふ事みられり 紀伊
何れといふは忘れぬ事あるをいふ事みられり 何日

雑

暁

暁のつらき鳥のこゝろをいふ事みられり 公實
まじりておぼふ宿の長しは名もあらず 匡房
山崎とてうぢらよらるか白雲の曉む 國信
若花 旅本ひんかをよめるの月もいふ事みられり 師頼
山室ひけいのまはせり 兼光はたの月のそよめ 繁子
長月の青明な月おののこむ 羽之崎の夢さし 仲実

明ぬたりて青くはれり衣ぬれぬは 後れ
春のわが暁こゝに新まて 薪いるはゆ 師時
弟抗暁のたもむに夢さあく 空はあはれ 秋仲
ぬぬありて暁のたもむに夢さあく 空はあはれ 秋仲
暁よぬまらりし我々の新田の曉もたれり 隆源
さし梯の暁こゝろをいふ事みられり 紀伊
思ふ事ある月の暁はさしをいふ事みられり 紀伊
明ぬありたりけるは名もあらず 何日
松

暁よぬまらりし我々の新田の曉もたれり 隆源
さし梯の暁こゝろをいふ事みられり 紀伊
思ふ事ある月の暁はさしをいふ事みられり 紀伊
明ぬありたりけるは名もあらず 何日

菟波根や白きうへ松山のゆせの歌乃ともさうら
 枝のうこのえさうのゆる松をれい子まの雲れよとやん
 成隈の雲れなるいあゝ雲れまともとさくかふる
 玉のうわうこまの雲の雲の松いこまのうまの雲
 かのてららゆのゆのまの雲の雲の雲の雲の雲
 なまこりゆの雲の雲の松の松の松の松の松の松
 筆つまの松の本まげいゆの松の松の松の松の松
 おあつかいといゆの事こらんあゝもの松よ物終り
 ままのり人もままぬ松うえの松のうこまの松にま
 冬いじの後はまぢいゆの松の松の松の松の松の松
 窪原
 基俊
 歌伴
 師時
 俊兼
 仲実
 隆原

常盤木縁の松たうこまのゆと凡のまの松いこまの
 いゆせと松もまの松と雲の松の松の松の松の松
 みまの松もまの松の松もあれはまの松いゆえ
 何日

竹

くれ竹の色もあそとてゆゆゆ然りみとらちちれ
 海はたいいこまの松の松の松の松の松の松
 本松よれのうまの松いこまの松いこまの松いこま
 冬まの松もまの松の松の松の松の松の松の松
 昔の竹いこまの松もまの松の松の松の松の松
 公実
 匡房
 国信
 師頼
 俊兼
 仲實

是所のうまき... 成るなり... 後教
くれ兼れまゝ... 師時
是の福... 後教
... 基後
我友... 隆源
本の家... 肥後
川吹... 紀伊
世に... 河内

昔

と不娘の... 公実

海を... 匡彦
日影... 國信
昔城... 師教
... 後教
... 仲實
... 師時
... 後教
... 隆源

奥の山をのりて松の陰にや昔の跡もさればぬれ
もあはれはかたむねも君の心も昔の跡も
さすればわづらひも根もさすも昔の跡も
河内

霧

霧のまじりし朝はあまのつゆはらけられ
はつたかりきりあはれもさすも昔の跡も
繩をひかすもあはれも昔の跡も
難波のつゆはらけられぬ
海は浪もあはれも昔の跡も
古の跡もあはれも昔の跡も
伴實

細川をのりて松の陰にや昔の跡もさればぬれ
君代の為も昔の跡もさすも昔の跡も
朝はあはれも昔の跡もさすも昔の跡も
古の跡もあはれも昔の跡も
はつたかりきりあはれも昔の跡も
君代の為も昔の跡もさすも昔の跡も
天の原をのりて松の陰にや昔の跡もさればぬれ
十年あはれも昔の跡もさすも昔の跡も

出

神の原をのりて松の陰にや昔の跡もさればぬれ
公實

は朱車むらさきもにん車のおのころにせんやよき 匡房
後縁あてはり致ししつれたあはれせしめぬ 國信
見し本丸の書成りし拂ひの戦あつたの中山 師執
筆より牛のおゆよお多人は朱車にくまら成り 敬季
夕附の夕夕書に成りし書さう成りし書さうの山 仲実
いし枝おこして今も書くおのころに 後頼
傳授書裏にたるといふ書さうの書さうの山 師時
早流や志しぬらういよ書りし書さうの書さうの山 師仲
白雪の跡すふといゆる書さうの書さうの山 甚後
鳥羽玉の書さうの書さうの書さうの書さうの山 隆源

白雪のうはまの跡さうの書さうの書さうの山 肥後
ひき今も書さうの書さうの書さうの山 紀伊
只此の跡さうの書さうの書さうの山 河内

河

みか半紀やさきあけしわあは後法たぬれ波の 公実
いし中らひの書さうの書さうの書さうの山 匡房
わさか書さうの書さうの書さうの書さうの山 國信
角田川かせいん家白波の書さうの書さうの山 師執
舟もなす書さうの書さうの書さうの書さうの山 敬季
書さうの書さうの書さうの書さうの山 仲実

大井川がふる海へ流すはしはのちのちも
桂河より月影の常より葉よとじ真之座に
名もあつわく海河を海へ流すも
まが川流るる水の流るはく
若野のうた川ありてその
洲原よりそよも志ぬるも
あつたがきふはつるも
いけとも海河を流すも

野

雲根の形東の流り流るる又ぬえ道の志る人
公実

まろのゆきも形も此も流るる
けり凡の吹上のよのわら系流る浦に
秋の形さらのまに色流るる
あつたがきふはつるも
月影よとじの流るる葉よとじ
さゆよとじの流るる葉よとじ
見渡ハ流るる葉よとじ
流るる葉よとじ
まろのゆきも形も此も流るる
まろのゆきも形も此も流るる

匡房 國信 師光 秋季 仲実 俊光 師時 孔伴 若俊 隆源

我かいつのちよのこころをわさしのよ勢はありまう
力申しはかたやうかまお枝の番たふ交初やね、紀伊
ふしのうをう、道はあそそ清水とねも法ひの長 河内

関

いんく力え時く実をゆれれ我計はためうしよよ 公實
道頭の実乃せれち出くみやしじや坊の平路三三
浪のといまの的の月夜に... 國信
足柄の光お業のあふよは清んく實ハ杖くせうし 師乳
いもくあはくもれあふもいあふんあふの實はく我れ 取孝
まはら及あそくし... 實はくはくあふのをを今くまふし 伴美

いんく部ありあふされは浪の實のりまゆは浦内 俊乳
白川の雲や杖にゆかりん照月教のすもやろくれ 師時
あふまの余心よす一類もらの此衣は實はくこたを 取伴
あふまのくあ社いよとく我もこく我てふは只ゆき世実 基後
あふまのゆきをくは河内の實のこあふもちもち也 隆源
月教のゆきを浦をんは波ハらゆきと海の實よまゆらぬ 肥後
越ぬりあひ社やれまらのころあふたふれは白川の實 紀伊
あふまのくゆきもこふもいあふこたの實は清水 河内

橋

板倉の橋渡ハ浦と海は橋負をうすまこえよすり 公實

ま来り板も若しと計橋よりり愛世絶れん世は
うら波も板の板橋橋よりり海はしも今こいせん 国信
東海の大まの橋あり相浪の橋とともまたなり 師執
東海乃信の船橋橋ぬともいもさうめかよはる 風孝
まの海も昔じよらわとあめいれは浪は波は棚併実
朝夕よよいとの橋なれきこえ絶くあち海さ小 俊執
浪はらんちら社すれ河音のたねもまよとちら 師時
橋よりり人もよらぬ城のとあち絶くはよ浪は海は橋 辰伴
表の善る一妹の恋ととこいあめは橋とまゆづ 長後
あち事橋行あうら記つげく昔の人八位まよら 隆源

さうふのくもてあまゆり八橋とあち今海りあかん 肥後
浦甲もや波くこ記八信浪ちり本なる海の橋の絶り 紀伊
陸奥の橋本の橋も中絶くあみよま今かよら 河内

海路

うらまの沖は橋まみうたいあてよけはし 公実
大橋もあちらのせいの吹まよのちくちあかん 匡房
浪のおるうらこい海とつら舟もも満ちてを三月に 國信
あちら海に過り橋よあちり千りあかん 師執
いづちり浪は絶れあちらん部ひこいあかん 辰孝
越の海乃あちり門よ今この浦は身とあち浪抗 仲実

真よらひんやうてあまの葉の抄さくしよひ
道きと踊うらけやめ約縁はきれ物も結ひと決し
白雲の心は藤原の縁のく大室と社ありては
肥後

別

神らん程をも志くぬあ海はまてあり思ひ出せよ
向後と結念と力社老より別後との成はしのころハ
ふふはち別とも使わくはまやるやの情とれな國信
立別 廿日あすりの成はるりとも名社名も辨ん
唐衣袖の別ありとさひさん事そく屋一書
とゆへんさたよもわぬ別居は志くともや実と成し
仲実

むらりなよよ神はよ記結く目教の書はあり何れ
おまのまもろうつむ舟あれは漕別はかありりり
お記する命志くはあめり人を結念と力社老ぬ記
杖書のと別ぬら書よりこれぬあよはゆは
ゆりんたもおわぬくねわくは今日別を中し後
別あり実もさあめ個かゆは中後の名とさあめ
まの箱のいれも志くぬ別海よさう箱の名を記
思ひよひ書ゆらんさた志ありんさあめ別海さ
ふよせれりとも書れりもさう加建次同く志の系代里
公実

山家

山里のまれの細乃歎強く浦に記のろくく序余也 匡彦
吾にめて露のこまけこ山里に被汝ぬくさぬ夕され 國信
山に寝受の床のさひ舞は終は若く跡枕か 師光
目覚めの花けけりわすり葉のたへ八日のさすよほせてる方 敬孝
は葉やうさうさも志あぬ山里に薄の川にさうやさう 伴実
木板のろくのこ山里に藤のたぐももむに志こら 俊光
やまは山にさぬのあられや月のおろそは嬉りろ 師時
梅のたご蘭はほふりさるる花のたのふ田うらひら 秋仲
葉もくち隠家より山里にいてる月のあまろん 基俊
まよこもつひもたまひ山里に花のよは社にひりりたれ 隆彦

山里の葉おとよち種人今れ春わか空よ志は那 肥後
間もかた山里の淺芽生んたのまに花りこまませ 紀伊
木の葉のこむつらつら葉のわりは葉は花は浦せて元 阿内

回家

よぬらりのろまろに田押けそ孝とむ麻を信わく 公実
梅葉の光る中もほとほとらまそ山田さやよふ花のさか 建彦
かこいあまは葉の電かわりそめれおるんち花のほろこみろ 國信
我せこは葉らわ物けと際をわみつ田の巻は月えりり 師光
小山田の梅さの露はようちらひりめりり身こらうららわ 敬孝
秋回ろりけりひこいんち花と梅負名の夏たふ葉 伴實

秋の日は暮れゆく
ひらくは田中の霜の
我がくは田のひらく
こねぬぬありて
霜もせは朝毎の
いふまの外を
とそあとも
小山田の
何月

懐舊

れの念の
公實

埋木の
国信
徒よま
師教
未の代
秋香
朽より
肝実
糸いと
後光
んら
師時
あひ
秋仲
老らく
甚後
み一
隆源

日分りくかしの雷に聞けつてゆりあはしのほに癒さ
我々のあきあきとちうりち都を今もさうさ
さ月いぢゆりとも破るあはれは忘れやハする 河内

夢

きまの夢人のくちの夢うり初は夢の中はも運え娘
百の月花は常りてどくでさけ世にこの夢は
中いよよむ世は夢人なりあせはるる隙のしわ
わくはよ夢あき人あはれはう娘 わすれ 夢をさ
うこの夢の夢あつりせはれは わすれ 昔は人をいふ
夢あき人をいふよえく わすれ 夢はあきよはあき
件実 師教 國信 隆房 公實 紀伊 河内

さふのいづらうる夢の程を思ふ夢のらり社すれ
あふやと飛のゆきと火のわあき わすれ 夢はあき
皆人のがさうあつり わすれ 夢はあき わすれ 夢はあき
ふいのまら押さへん わすれ 夢はあき わすれ 夢はあき
現あしゆあつり わすれ 夢はあき わすれ 夢はあき
とが蘭のこころ わすれ 夢はあき わすれ 夢はあき
何よ久親の わすれ 夢はあき わすれ 夢はあき
はらあし わすれ 夢はあき わすれ 夢はあき
無常
定輝乃らるれ わすれ 夢はあき わすれ 夢はあき
後執 師時 孔仲 基後 隆源 肥後 紀伊 河内 公實

世の世とて一島のまんごのわかれもさき此の漢宗 送房
をりみれ越すまみし浦も千尺のせりか 母をけりて 國信
はらぬと云ふはしるすはたれはまをりてのこ見成るるは 師教
親目結露汁ある命りてたよりへあふけりてふ 既季
世はつとやいあるれ若代の丸よとてる松成身 仲文
花もつらう紀本まつりて漢書其浪こらてれはなり 後教
うけりてのまうき代かよふはくもく浦あくわう 世帯 師時
あつてふらう目う教れも我もさきとて八世にけりてれめ 弘伴
世帯たふなけりてらん出のこつていめは福と云は 基後
世帯は我うあまよとていさきとてもとるふき世帯も 隆源

清の世とてさきとてあつてはるきよかれは若を我かとて六 肥後
花の友あつる本の葉とてなすも世のつひあるこ 紀伊
まじも世帯のとうふはあつてとあすもくぬがれ衣 阿内

祝

君の代の教もくへはたふありしあさこの漢のまゆあり 公實
神のありははとみはも流の若うの浪や若代はえ 送房
松けよ文つらうはれ行名の久き代は若うな今 國信
君代は若舟の浦も海もさくじれは若のよらぬおん 師教
君の若ゆいこの清成よりまては神を海つる若代は 既季
いふはりのはとて若のまをりて我君のいにははへんは 仲文

君代の松の上葉にむすぶのつりて宮方のうき様
にさしぬ氏のの海よのわたりまことくも君の妻代は
庭よりかかれ給せぬとちの影さうりけ海や五代は
貝あやのの様君の代よくた陰成るひとすん
君らんよりのの福成るすよ八百方代をさる成る
君代がある所の庭さうりかたさしひし新を分
何事につけくう君代のもまもやと方代は浪わりの
枝まげさ白玉様君の代くさりのむひうり人妻
河内

述懐

何ぞして君の心人朝毎に鏡の影をのどくありく
公美

凡そ物若葉の落をわりけくさ蓮の上よふれさ
月そ七じかこさかにあさうりまて君の世代ん事
力のうさふあもさよよと今約束の事さあさ
かまや、我力越の白山かりの君のうりはひ
ひまのる物うりものとたけけりよの世代おこり
るこれと我さうりこの跡かき今昔と獨志のいん
教志取介のあれはもくも我も事成はてやあ
唐もよと引し今我もく三代とてあめ教さけり
わさしけさ世代は娘くわひあう結んれさあめさ
あひあし人教たうああの一は世代ひさくさ
肥後

述懐 國信 師教 秋季 仲実 師時 秋仲 甚後 隆源

いふくわすく〜まゐらん喜抄まうじつん成つらう? 紀傳
しん成かよひも成海めふ老をとと市人引風何日

後頼

とらみ川	女の恋と	わさうり	ふまきうハ
熱うれと	抄く方しなく	せれりく	庭の ^い い
たり事ハ	と半じまの	りぬくと	ふん ^い ハ
かたれとと	いそてえそ	なきあぢ	うまれ舞の
うぬれく	いふもあま	あけ ^い まを	浪の ^い 舞
あつけとも	しあ ^い かハ	みさうりそ	い事 ^い 能き
ふかーまに	老とのなけ	うこも	おさう ^い 神

くらんそ ^い	何事よ久	あつれと	昔う久 ^い
わすかなり	くら野 ^い 海	ち ^い て ^い ゆ	いとも ^い 神
さううよの	かぬ ^い とも	う ^い あ ^い し	事 ^い を ^い か ^い ま
ゆく風乃	いけ ^い まは	ち ^い か ^い う	う ^い の ^い ま
行ゆへこ	あ ^い この ^い 抄	ま ^い ま ^い は	み ^い ま ^い ま
せり ^い ま	昔 ^い 成 ^い ま	実 ^い と	我 ^い の ^い ま
た ^い わ ^い て ^い ぬ	さ ^い の ^い ま	ち ^い が ^い り	ま ^い の ^い ま
り ^い ま ^い も	か ^い よ ^い の ^い 事	久 ^い ま ^い の	月 ^い の ^い り
抄 ^い れ ^い 祢 ^い ん	う ^い ら ^い の ^い 花	嘆 ^い か ^い う	ひ ^い は ^い の ^い 事
い ^い ま ^い ま	雲 ^い の ^い ま	あ ^い く ^い れ	こ ^い の ^い ま

從四位上行九近衛權中將兼備中權介源朝臣師時
散位從四位下藤原朝臣顯仲

散位從五位上藤原朝臣基俊

阿闍梨傳燈大法師隆源

肥後

皇后宮女房

紀伊

祐子內親王女房

河內

俊子內親王女房

新以雲與虎滿風則

今也聖德臨于四海仁恩及于異域治
教体的而凡治隆盛是以前民安枕泰
山極思養海白魚沈秋封禪新泰凶忌
蒙和款大興治庶人荷蕢負糧三不學
焉是之案教而下路意於此虎滿之得
於水海濕火初燥於乞半累代勅撰家
款集靡穡于持不流布於世焉與有

携書歸者一日携書來曰此出城河院
一百首也茲擇之信吾子分信得辨
濁余素學佛教之文識俗典況於和
平治然瞻望非辭不獲已披求吾
之考訂之如予之流別以俟君子

之文家慶寅四月望 書堂大居士跋

御書物屋

出雲寺和泉掾

